

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	盛岡お酒を楽しむ会開催事業			事業コード	1712
所属コード	132000	課等名	観光課	係名	
課長名	吉田 春彦	担当者名	村上 麻衣子	内線番号	3723
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源を活かした観光・物産	コード	4
	基本事業	魅力あふれる物産の振興	コード	3
予算費目名				
特記事項	盛岡お酒を楽しむ会実行委員会予算			
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 15 年度
根拠法令等	なし			

(2) 事務事業の概要

盛岡地域（原則として盛岡税務署管内）で生産されるお酒（日本酒，ビール，ワイン，焼酎）の宣伝と消費拡大を目指し，酒どころ盛岡地域のイメージの向上を図るために，「盛岡お酒を楽しむ会（盛岡のお酒大集合展）」等のイベント開催や，盛岡地域の酒造メーカーを紹介する「酒ロードマップ」の作成等を行う。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

元々は市内ホテルの独自事業として開催していた事業を，平成 15 年に盛岡地域のお酒及び酒造メーカーの PR の場として活用するため，関係者（酒造メーカー，岩手県酒造組合，ホテル協議会，盛岡地域地場産業振興センター，他町の自治体，他町の観光協会等）に参加を呼びかけ，実行委員会が設置された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

事業開始から 10 年を迎え，盛岡地域のお酒を楽しめるイベントとして定着してきた。近年は，実行委員会として一定の役割を果たしたという意見もあり，事業の継続の有無や実行委員会の存続が，課題としてあがっている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

酒造メーカー，20 歳以上の市民

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 酒造メーカー	社	13	12	13	13	13
B 20 歳以上の市民	万人	24	24	24	24	24
C						

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

- ・盛岡お酒を楽しむ会実行委員会（総会）の開催
- ・「盛岡お酒を楽しむ会（盛岡のお酒大集合展）」開催

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 参加者	人	306	280	300	260	300
B 参加酒造メーカー	社	13	12	13	13	13
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

- ・「盛岡お酒を楽しむ会（盛岡のお酒大集合展）」の満足度を上げる。
- ・盛岡地域（盛岡税務署管内）の酒類の生産量を増やす。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 参加者アンケート結果 満足度	■上げる □下げる □維持	%	95	91	95	96	95
B 盛岡税務署管内製成数量	■上げる □下げる □維持	kl	3450	3450	3500	3500	3500
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	0	0	0
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	0	0	0	0
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	240	240	240	240
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	960	960	960	960
計	トータルコスト A+B	千円	960	960	960	960
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

施策体系に結びついている。

イベントを通じて地元で生成される酒類への興味関心を高めることにより、需要が高まり特産品として育成される。

② 市の関与の妥当性

妥当性はある。

業者同士の利害関係をを超えて、盛岡地域の特産品の販路拡大が進められる。

③ 対象の妥当性

参加酒造メーカーについては、近年、観光・物産振興や商品開発などで新たにお酒づくりを始めた団体や企業があるので、新たに増やす余地はある。

④ 廃止・休止の影響

零細な酒造会社にとっては、独自でこのような規模のイベントを開催するのは困難であるうえ、このイベントは 300 人あまりの参加者に直接自社製品を紹介することが可能であり、各メーカーの知名度の向上、販路拡大に大きく寄与している。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

広告・宣伝をさらに効率的に行うことにより、参加者増に結びつけることはできる。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

参加者が、すべての酒造メーカーのブースに参加できるため、受益機会は公平である。

(4) 効率性評価

この事業は、実行委員会予算（財源はチケット販売代）で実施しているものであり、発生している事業費については、印刷費（ポスター、チラシ、チケットの作成）、ホテルに支払う会場代（料理代金、サービス料）、参加酒造メーカーに対する出展補助金など必要最低限であるため、これ以上の支出削減は困難である。

人件費についても、一定の業務量はあるものの、必要最小限の人員で対応しているため、これ以上の削減は困難である。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

事業開始から 10 年を迎え、盛岡地域のお酒を楽しめるイベントとして定着してきたが、その一方で、近年参加者の顔ぶれが固定化してきており、マンネリ化の傾向にあるとも言える。

より多くの人に盛岡のお酒のよさを知ってもらい、お酒の消費拡大につなげるため、内容の改革改善は必須である。

現在、酒造メーカーを中心に、酒造メーカー主体のイベントとして開催できないか、今ある実行委員会の解散も視野に入れて検討しているところである。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

市としては、広報・宣伝活動などできる支援はしていく。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

イベントへの参加者も固定化の方向にあり，事業としては市民に定着してきていると思われることから，今後は実行委員会会長の意向を取り入れ，魅力をアップし，酒造会社やホテルの主権に向けて調整を計る必要がある。